

# 千住の琳派

— 村越其栄・向栄親子 —



▲ 村越向栄<<秋草図屏風>> 江戸時代後期（千住河原町稲荷神社蔵）

俵屋宗達から続く琳派の画風を、千住でも受け継いだ絵師たちがいました。江戸琳派の絵師、鈴木其一に絵を学んだ村越其栄（1808～1867年）は、現在の千住河原町で家塾を開きながら千住の旦那衆の依頼を受けて絵筆を執っていました。父から家塾と画風を受け継いだ息子の向栄（1840～1914年）もまた、千住の旦那衆に親しまれ、向栄と旦那衆による光栄会や与楽会を設立するなど、琳派芸術の一代文化集団を形成しました。



▲ 中野其豊<<四季農耕図屏風>>明治時代



◀ 明治末年の村越学校様子  
其栄は、天保11年に現在の千住河原町に家塾「東耕堂」を創立しました。それを慶応3年に向栄が継ぎ、明治6年に私立村越小学となり、明治28年まで校長として勤めました。学校は明治43年に大洪水被害により閉校しました。

## 琳派ってなに？

江戸時代初期、京都の本阿弥光悦と俵屋宗達が華やかでデザイン的な様式を創始しました。これに影響を受けた尾形光琳がその画風を独自に継承、発展させ、さらに光琳に私淑した酒井抱一がそれを江戸で広めました。「たらしこみ」などの技法の他、金や銀を多用する装飾的・工芸表現が特徴です。